



学校教育目標「向上心 ー共に学び、夢に挑む自立した子どもの育成ー」

やしろ学園

地域版 7月号

加東市立社学園小学校 学校通信

大阪・関西万博で地球規模の課題を考える

日本で万博（国際博覧会）が開催されるのは3回目です。1回目は1970年の大阪万博（EXPO 70）、2回目は2005年の愛知万博「愛・地球博」、今から55年前と20年前になります。今回は、兵庫県の取り組みとして、今ここでしか体感できない特別な学びの場となる万博に、子どもたちを招待することに賛同する企業と連携し、「万博子ども招待プロジェクト」として無料で参加できることとなりました。また、加東市からもバス代等全額負担していただきました。このような機会を頂いたことに感謝したいと思います。

テーマは、「いのち輝く未来社会のデザイン」。持続可能な社会実現のために、進化した技術やモノの紹介だけでなく、「生きるとは」「幸せとは」の問いかけを含め多様な国や企業のパビリオンから発信されていました。

5月27日（火）、5年生が関西万博へ校外学習に行きました。事前学習でパビリオンなど調べていたので楽しみにしていました。コモンズでの班行動では、短い時間でしたが、スタンプを押しながら、各国のブースに入ってメモをしている姿が見られました。

予約して見学した「未来の都市」パビリオンは、仮想空間と現実空間が融合し、経済発展と社会的課題の解決を両立する未来社会

「Society5.0」をテーマにした夢のある空間でした。子どもたちは目を輝かせ見入っていました。大屋根リングにも上がり、万博会場を一望することができました。お弁当も班員と楽しく頂きました。



6月3日（火）、気象警報が心配されましたが、出発することができました。会場到着後も雨が降っていたので、カップを着ての見学となりました。5年生と同様の行程でしたが、6年生は日本館3のパビリオンへ見学に入りました。ファームエリアでは藻類の光合成を利用した培養装置（下右写真）を見学しました。森林浴のような癒しを体験しました。

今回参加した子どもたちが、20年後、30年後に地球的課題を解決し、新しい未来社会を創ってくれることでしょう。



自分で考え行動する勇気と優しさ

地域から2つの嬉しい連絡がありました。

1つ目は、5月31日（土）、図書館からの連絡でした。「ステラパークの隣の池に段ボールがたくさん落ちてしまっている」と小学生の女の子2人が図書館に伝えに来てくれました。公園で遊んだあとの段ボールみたいだと拾えた分を持ってきてくれました。池に飛んで行った分は危ないから拾わなかったということなので、カウンターで対応した職員も、それで大丈夫。池には近づかないようにと注意してお礼を伝えて帰ったそうです。まずは交番に行って誰もいなかったので図書館まで足を運んでくれたそうです。池に落ちた段ボールをととても気にしてくれていたようです。

2つ目は、6月4日（水）、地域の方からお礼の電話でした。コンビニでコーヒを買って、強風のため動けずにいたら、小学校低学年くらいの男の子が「コーヒを持ってあげる」と声をかけて助けてくれたそうです。そのことが神戸新聞の投稿に掲載されていました（右写真）。

2つの話を聞き、子どもたちのとった勇気ある行動に大変嬉しく思います。小学生として自分たちにできることを考えて行動したことは素晴らしいと思います。困っている人に寄り添い、見返りを求めない支援や手助けができる優しさを大切にしてほしいと思います。

◆男の子の優しさに涙
首を痛めて手足がしびれているため、外での移動はつえが必要です。車で買い物から帰る途中、コーヒを買うためコンビニに寄り、つえなしで出ましたが、車に戻る途中で強風にあおられ、ふらついたんです。コップを持ったまま、動けずにいたら、小学校低学年くらいの男の子が「コーヒー持ってあげる」と言って助けてくれました。車の中で友達にラインを送っていると、男の子がまた来て「景品で当たったから、一つあげる」と、お菓子を小分けする袋をくれました。男の子の優しさに涙が出ました。（加東、女、73）